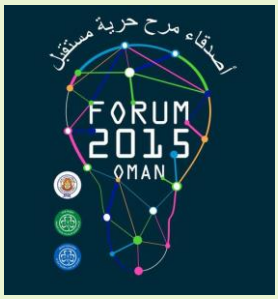
FORUM 2015: GIRL GUIDE&GIRL SCOUT EXPERIENCE FORUM

FRIENDS, FUN, FREEDOM, FUTURE

文責:　川邊早織 山田咲穂



参加国: アルメニア、オーストラリア、バングラデシュ、バルバドス、ベルギー、エストニア、フィンランド、香港、日本、ヨルダン、ケニア、クウェート、レバノン、マダガスカル、マラウィ、マレーシア、モルディブ、メキシコ、ニュージーランド、オマーン、パキスタン、パナマ、ペルー、フィリピン、カタール、ルーマニア、ルワンダ、スリランカ、スロヴェニア、スーダン、スウェーデン、シリア、チュニジア、イギリス、ウクライナ、アラブ首長国連邦、イエメン、ザンビアなど約 40 か国

日本参加者：２名

神奈川県 第 6 団

川邊早織 (20)

大阪府 第 101 団

山田咲穂（20）

概要

事業名:Girl Guide& Girl Scout Experience Forum

滞在期間: 2015 11/27-12/2

参加者 : 約 40 か国、100 人

開催地: オマーン　マスカット

主催: WAGGGS, アラブ地域

テーマ: Friends, Fun, Freedom and Future

フォーラムについて

Girl Guide& Girl Scout Experience Forum とは？

・WAGGGS の様々な正加盟連盟と準加盟連盟から参加者が集い、それぞれのガールスカウト経験を共有することにより、互いの活動に影響を与えさらに当運動を発展させるための活動方法を模索する。

・国際的なネットワークを構築してビジョンを共有し、ともにビジョンを実現するために活動する。

この二つを目標に掲げた、初の世界規模の Experience Forum でした。

事前準備

出発前に WAGGGS からそれぞれの参加者に対して、フォーラム中に扱うトピックと関連した質問がいくつか提示され、各自それに対する答えを用意してからディスカッションに臨みました。

質問例:

・基本的な教育方針・枠組み、およびその成果はありますか？

・異年齢のグループごとにどのようなプログラム・アクティビティを提供していますか？

・もし若い世代の会員が一つガールスカウト・ガールガイド組織を改革できるとしたら、何を変えますか？　など

また、各都道府県連盟より私たち参加者にメンターの方を紹介して頂きました。経験豊富なメンターさんからは、日本連盟の代表として日本のガールスカウトの活動を正確に伝えられるように、とご指導いただきました。

つまり個人としてだけでなく、都道府県連盟、ひいては日本連盟の現状や意見を代弁することが私たちの使命だということを再確認しました。そのため、リーダー講習で習うような基本的なことから、現在日本各地や世界で行われている活動について学びなおしました（以下、フォーラム日程表）。

Girl Guide and Girl Scout Experience Forum:
Friends, Fun, Freedom, Future
Muscat, Sultanate of Oman, 26th November – 1st December 2015

PREPARING TO TAKE PART

Draft Programme (subject to change)

	Forum 2015: Friends, Fun, Freedom, Future - Oman, 28/11 - 2/12 2015						
	ARRIVAL						DEPARTURE
	Friday 27/11	Saturday 28/11	Sunday 29/11	Monday 30/11	Tuesday 1/12	Wednesday 2/12	Thursday 3/12
7.30 - 9.00	ARRIVAL	Breakfast Safeer Hotel	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast
9.00 - 9.30		Opening ceremony (offsite)	Opening the day	Opening the day	Opening the day	Opening the day	DEPARTURE
9.30 - 11.00			Plenary: Facing the future - GG/GS in the 22nd century?	Plenary: building a youth led organisation	Plenary: diversity	Plenary: Reviewing national experiences	
11.00 - 11.30			Coffee	Coffee	Coffee	Coffee	
11.30 - 13.00			Plenary: Our method today: creating youth-led learning spaces	Parallel: More Adventure / Changing the Game	Accessibility: working with special needs	Shaping the future	
13.00 - 14.00	Arrivals and registration	Lunch (offsite)	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	
14.00 - 15.00		back to Safeer hotel	learning groups/networking	learning groups/networking	Ideas Market and networking	learning groups/networking	
15.00 - 16.30		Set the scene	Plenary: 21st century outcomes of the experience	12. MUSCAT ADVENTURE		Shaping the future pt 2	
16.30 - 17.00	Coffee	Coffee	Coffee		Coffee	Coffee	
17.00 - 18.30	Meet and greet, learning groups	The GG/GS experience - opening up to change	Parallel: Be the Change / 14+ programme		Parallel: MO partnerships for richer programmes / international experiences	Present outcomes, evaluation	
18.30 - 19.30	Dinner	Dinner	Dinner	Dinner	Dinner	Closing ceremony (offsite)	
19.30 - 21.30	Free/networking	learning groups/networking	International Night	Special interest groups networking	city tour		

(1) 地元メディア取材

(2) 日々の質問

(3) セッションの様子

セッション内容

フォーラム期間中は毎日一つずつ質問が壁に張られ、参加者はツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアを使って、フォーラムには参加していない各連盟の会員からその質問に対する答えを集めて貼っていました。このようにセッション時間外にも考えを共有し深め合うことができるツールが用意されていました。(写真(2)参照)

11/28

・オープニングセレモニー

ここでは、オマーンガイドによるマーチングバンドの演奏披露や、オマーン連盟の活動紹介などが行われました。現国王スルタン・カブースもオマーンスカウトの一員であったことを知り、驚きました。セレモニーの様子はテレビ、新聞など各種現地メディアで取り上げられました。(写真(1)参照)

・Set the Scene（はじめに）

ガールガイド・ガールスカウト(以下 GG/GS と記載)経験をより良いものにするためにはという問いに対し、各ラーニンググループで話し合いました。①何をするか(アクティビティ)②どうやってするか(メソッド)③何故それをするか(目的)をしっかりと考えることで GG/GS 経験はしっかりとしたものになるという結論が出ました。(写真(3)参照)

11/29

・Facing the future（目の前に広がる未来）

オーストラリア連盟主導のこのセッションでは、オーストラリア連盟が実際に行った組織改革の内容とその理由を学びました。オーストラリア連盟は、1990 年代のブームを境に減少していくガールスカウト人口を増やすために、時代のニーズに合ったプログラムを提供していくことが必要不可欠だと気づき、約束とおきての更新、制服の刷新、ハンドブックの改訂、各プログラムのレビューなどを行ったと学びました。

・21 century skills（２１世紀の力）

香港とザンビア主催で行われたセッションでした。現在５歳の子供たちが大人になったとき、今ある職業の約 65%はなくなって、機械に取って変わられるといわれています。つまり、将来の夢が実現できない社会が迫ってきているのです。目まぐるしく変化していくこの社会に対応するために必要な力とは何か、ということについて話し合いました。「誰かから教えてもらうものを鵜呑みにするのではなく、自分で発見する力」こそが今まさに求められているものであり、リーダーたちはスカウトに活動を通してその力を身に付けさせていくべきだという結論に至りました。

11/30

・Building a youth led organization（若者主導の組織を作り出そう）

GG/GS を Youth led(若者主導)にする必要性について話し合いました。ディスカッションの中では Youth led にすることで、若者のニーズに合った組織になり、その結果新たな若者(新規会員)を引き付けるといったメリットが期待できるため、会員数減少に悩む各連盟での必要性は高いという意見があがりました。

・More　Adventure（もっと新しい活動）

様々なゲームを通して、特に小さなスカウトたちが楽しく遊びながら学べる活動について考えました。このセッションはレバノン主催で行われました。一つの筆を使ってチームみんなで絵を描いたり、歌を歌ったりしながらチームの連携を高めました。また、自分たちが今まで経験してきた活動を、活動的かそうでないかに分け、それぞれどんなメリットがあるかについて考えました。

・Muscat Adventure（マスカット　アドベンチャー）

今回のホスト国であるオマーンの首都、マスカットの観光に連れて行っていただきました。このツアーでは、オペラハウス、美術館、マーケットを回りました。オマーンが芸術を嗜むことに国として力を入れたのはごく最近のことのようで、オペラハウスや美術館はかなり近代的な作りでした。美術館では、オマーンの民族衣装や家具、生活様式等を時代の流れとともに展示してありました。(写真（4）（5）（6）参照)

(4) オペラハウス

(5) 美術館

(6) マーケットの様子

12/1

・diversity（多様性）

現在、世界では多くの人権活動が行われています。女性、障がい者、人種、LGBT など、どんな人にも平等に自由の権利が与えられるべきだという活動は、GG/GS も以前から携わってきました。そのことを振り返るだけでなく、今日の GG/GS 活動には多様性が認められているのかについて話し合いました。

例）・制服がスカートしかないと、トランスジェンダーのスカウトが活動しにくいのではないか。

・GG/GS の活動に、他の団体や一般の人が加わる機会を増やすべきではないだろうか。　　等

・Accessibility（オマーンガイドの活動をみて）

この日はオマーンのガイドたちの集会を訪問しました。クラフトにいそしむ子供と交流し、また障害をもつガイドたちによる歌やダンスの発表を見学しました。日本連盟とは違って、オマーンガイドは School based(学校を拠点にガイディングを行っているということ)だったので集会の場所も現地学校でした。(写真(７)参照)

・Ideas Market　（アイデアを交換しよう）

このセッションでは連盟ごとにブースを設けて、各連盟がユース会員に対して提供しているプログラムや取り組みの紹介をしあいました。私たちは、事前準備として調べてきた自連盟の取り組みについて、参考資料(Girl Scouting などの広報誌、集会の写真、自団の記念誌等)を使ってブースを訪れた人に説明しました。ブースによって展示方法も様々で、短いスピーチを交えて自国の現状を報告しているところもありました。(写真(８)、(９)参照)

(７)オマーンガイド

(８)ヨルダンブース

(９)スピーチの様子

12/2

・Reviewing national experiences（経験を振り返って）

最終日のセッションということで、これまでのセッションを通して話し合ってきたことを総括するトピックについて話し合いました。印象的だったのは、各連盟の新規会員獲得のための取り組みです。

例）政府とボランティアによる支援の下、家庭環境に問題を抱える子供向けに無料のキャンプを開催して活動をアピールする。(ベルギー)

孤児院等の施設で Guiding Session を開き認知度を高める。(メキシコ)

スーパーに併設されているキッズコーナーでワークショップを開き、より多くの子供に広報する。(ウクライナ)

以上のように、様々な取り組みを通してより多くの子供たちに GG/GS を知ってもらうことで、会員数増加を目指す連盟がいくつもあると知りました。

・Shaping the future（未来を描く）

全てのセッションを終えて、自分たちが思い描く未来とは一体どんなものなのか、について話し合いました。このセッションでは５つの地域にわかれて、ずばり「世界連盟に取り組んでほしいこと、変わってほしいこと」を話し合い発表しました。アジア太平洋地域では、school based（学校で GG/GS 活動をする）の国と area based（學校と切り離して活動をする）の国に分かれて話し合い、日本が参加した後者のグループの中では、「世界のガールスカウトが活動や意見を共有できる、簡易的なものを作ってほしい」、「世界連盟が主催する活動の理念を、もっとわかりやすくどの国の人にも合うように」等の意見が出ました。

フォーラムを終えて

　フォーラム中、毎日様々なトピックについて話し合いを重ねていく中でどの国にも共通していると気づいたことは、10 年、20 年と時が流れていく中で活動にまったく変化のない連盟はないということでした。時代の変化に伴い、スカウト・ガイドたちが活動に求めるものは日々変化していくため、その時代のニーズに合わせるため組織形態・活動内容などを臨機応変に対応させていることが分かりました。今回のフォーラムはその具体的な方法や内容について、世界中の各地域の連盟の代表から直接話を聞くことができる貴重な機会でした。

また、その他国の代表として参加していた人たちの多くは、各連盟の中でも中心におり組織運営の実働を担っている人だったため、活動にかける熱意も非常に強く、毎回活発なディスカッションが楽しめました。若輩の身でありながら、そのような人たちと対等に意見を交わしあいそれぞれの連盟に活かせるアイデアをお互いに交換することができたことは、私の中での自信につながりました。

日本のガールスカウト運動は、2020 年で活動 100 周年を迎えます。そのような長い歴史の中で、日本のガールスカウトという組織が形成され、またそれを取り巻く社会環境も変化し続けてきました。これからの時代、ますます技術が発達していき、暮らしが便利になっていくことが予想されます。しかし、仮に何もかもが便利になってテクノロジーがすべてを解決してくれる世の中になったとしても、「自ら考え行動して生きる力」を育む場としてガールスカウトがあり続けることを、私は強く望んでいます。

上述のとおり、決して時代の流れに逆行することなく、その時代時代のニーズに合った活動を運営するには、私たちガールスカウト会員一人一人が「チェンジエージェント」としての自覚を持ち、自らの声を発信していくことが一番重要だと思います。活動を通して、こうしたらもっとガールスカウト運動はよくなるな、あるいはこの日本社会がよくなるな、と気づいたことがあったら、それを伝える努力をすれば、ガールスカウト会員皆の力でガールスカウト運動、ひいては日本全体をより良い方向に導くことができると思います。そのための小さな一歩として、今回私がこのフォーラムを通して得た知識が今後の日本連盟をより良いものに変えていく一助となるよう、１人でも多くの日本連盟会員の皆さんに知識を共有していきたいです。

神奈川県第 6 団 川邊早織

時代の流れと共に、私たち GG/GS のニーズも変わってきます。組織もそれに合わせて形を変えられる柔軟性が必要です。今は世界的に多様性が受け入れられようとしている時代です。どんな人にも人権が与えられるべきです。GG/GS は、この時代の先駆者であったはずだと私は思います。しかし、どこか閉鎖的なところがありはしないかと、わが身をふりかえる大変貴重な機会をいただきました。

どこの国も会員減少、特に若年層の不足には頭を抱えており、急速に対処しなくてはなりません。それぞれの国が、それぞれの形でこの問題に必死で取り掛かろうとしています。自分たちが GG/GS から得た経験は、必ずやどの女性にとっても価値のあるものだと確信しているからです。減少しつつあるとはいえ、現在でもガールスカウトは世界最大規模の少女と女性のための団体です。国籍も人種も言葉も違う人たちが一つの目的のために活動する、ということはある意味至難の業です。それをここ１００年近くやってのけた人たちのパワーを、肌で感じたフォーラムでした。

このフォーラムに参加して、日本がどれだけ若い世代に期待してくれているか、を実感しました。他の多くの国の参加者は、すぐにでも国連盟を変えるだけの力を持った方たちばかりでした。ですが、勿論私はそんな力はありません。日本連盟が何年も先のことを見越して派遣してくださったのだと、現地で初めて気づきました。

これからは、私たち若い世代が頑張らなくてはなりません。そのためには、より多くの経験を得て、消化して、自分の栄養にする必要があります。そうでないと、稚拙な机上の空論を述べてしまいかねないからです。経験を積んでようやく、意見に重みと現実味が帯びます。また、日本連盟が良くなると思ったことは、臆せず声にしていきましょう。若さ故に気づけることだって、山ほどあります。スカウトが若いのですから、ヤングリーダーはスカウトの大好きなものを見つける力があります。上手くいかないことがあっても、それはきっと何十年後の私たちが、若い世代に耳を傾けられる大人になっていくための肥やしです。これからの日本連盟を、私たちの力でもっともっと良くしていきましょう。私もこの経験をすべて還元する力はまだ伴っておりませんが、精一杯尽力したいと思います。

大阪府第１０１団　山田咲穂